

令和6年10月11日

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村名 (市町村コード)	所沢市 (112089)
地域名 (地域内農業集落名)	松井・並木地区 (大字牛沼、大字松郷、大字下安松、大字下新井、北原町、大字中新井、若松町)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年9月20日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・区内農地面積に対して、約13.09%が規模縮小などの意向のある農地となり、今後遊休農地化する可能性がある。
 ・区内農地面積に対して、約30.01%が75才以上の所有者、且つ後継者が不在となっており、今後遊休農地化する可能性がある。
 ・地区全体として、後継者不足及び遊休農地化する可能性のある農地が多く、新たな担い手を確保することが必要である。

(2) 地域における農業の将来の在り方

・地区中央に国道が通っており、地区が南北に分断されているとともに、総合公園が都市計画決定されており、松井・並木地区は、農地と住宅地が混在している市内でも都市化の著しい地区の一つである。また、同じ地区でありながら、飛地があるとともに、旧暫定逆線引き地区に隣接しているため、今後の都市計画の進捗と調整しながら農地の保全・確保を進める必要がある。
 ・地区ではほうれん草などの露地野菜のほか花き生産が多く見られるのが特徴である。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	79.44 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	79.44 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

区域内の農地については、原則、農業上の利用が行われるものとしている。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
目標地図に今後検討と記載された農地について、農地中間管理機構を通じ担い手や新たな担い手に集積、集約を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農地中間管理機構や農業委員会事務局と協力し、所有者の意向や、耕作者の意向を確認し、地区全体での農地中間管理機構の活用を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
地区内の経営状況として、所有農地面積が50a未満の農家の割合が50%を超えているため、小規模経営が多く見られる。負担の大きい施設整備等を進めることが難しいのが課題である。農業基盤整備に対する関心も高く、地域の状況を把握し、今後の方針を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
新たに法人参入希望のある法人や、他地区の担い手、新規就農希望者などを受け入れる。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
地域の実情の把握に努め、必用であれば活用を検討する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/>	③スマート農業	<input type="checkbox"/>	④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input type="checkbox"/>	⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/>	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

--